

【睦合北地区】令和6年度あつぎタウンミーティング実施結果

日 時: 令和6年8月22日(木) 午後5時～午後6時
会 場: 睦合北公民館大会議室
参加者: 地区の自治会長(5名)、公民館地区館長
市長、副市長、教育長、企画部長、企画部次長、総合計画担当課長、公民館・地区市民センター長

自治会長からの意見	市長等からの回答
意見1 本厚木駅北口の再開発について	
【上三田自治会】 ■テレビで厚木市は「借りて住みたい街」のトップだという報道がされていましたが、厚木市の将来を考えると、決して手放しで喜ぶことではなく、「ずっと住みたい街」のトップになることが将来につながると思います。 そういう観点から一番気になるのは本厚木駅の北口です。若い人は、本厚木駅前には自分たちが行くような店がなく、買い物は海老名や町田の方に行くと言いました。やはり、若い人が厚木で買い物をする、また外から厚木へ来て厚木はいい街だと思ってもらえるようになってほしいです。 本厚木駅北口の再開発は、非常に重要なことで、市民にとって夢のある、また楽しめるような駅前に開発されることを期待しています。厚木は文化施設がまだ乏しいことや、駅前の車の混雑や駅に送迎しても車を留めて乗り降りする場所が少ないことなどが改善されると良いと思います。厚木に住んで良かった、あるいは若い人が厚木で十分楽しめるようになることを期待していますので、これから、どのようにに再開発していくのか考え方をお聞きしたいです。 また、相模大橋の方に向かっていく通りはシャッターが下りた状態ですが、その辺りの眠っている土地を利用して、もっと大きなまちづくりができないのかを考えていたところです。市長の考えをお聞かせください。	■厚木市は「借りて住みたいランキング」1位、「買って住みたいランキング」は6位ですが、やはり「買って住みたいランキング」も1位となるよう、厚木に住みたいと思っただけのような取組を進めていきたいと考えています。 本厚木駅北口周辺については、市民の皆様に安心安全により楽しく歩いていただける駅前をつくっていききたいと、複合施設、新庁舎建築とともに進めているところです。 新庁舎建設は、7月に起工式を挙行し、9月から工事がスタートします。この北口の生まれ変わりは政策でも掲げており、新庁舎、アミューあつぎ、また本庁舎跡地を点ではなく面として捉え、100年に一度の契機として、厚木の未来の礎となるよう、妥協することなく再開発に取り組んでまいります。 今、本厚木駅北口の再開発については、地権者等の組合の皆様と連携しながら、どういう北口の生まれ変わりを望んでいくのか、そして、皆様が利用しやすい魅力ある本厚木駅をどうつくっていくか、準備組合の皆様とともに意見を出し合っているところです。イメージ等が皆様にお披露目できる状況になりましたらお話をさせていただきます。 また、本庁舎跡地についても、活用の方向性を示す基本方針の策定に向けて取り組んでおり、先般も意見書等をいただいたところです。中央公園、大手公園等も含め、県央にない、厚木のシンボルとして、より市民の皆様の誇りとなる建物にしたいと考えていますので、今後も検討を進めていきます。 (担当課: 行政経営課、市街地整備課)
意見2 区画整理事業によるまちづくりについて	
【中三田第一自治会】 ■睦合北地区では県道42号藤沢座間荻野線と、厚木秦野道路の2つの道路ができています。また、倉庫や資材置き場が増え、環境が大きく変わっています。 この地域の農業の状況を見ますと、残念ながら農業後継者は、たったひとりしかいません。田んぼは畑に変えることはできますが、畑を田んぼに変えることは、水が必要になり、そう簡単ではないことも含めて考えると、棚沢から下三田までの上段を市街化区域に変更できるような体制を行政で検討してもらえないかと考えています。 市街化区域にすれば、使われていない農地を活用して生活の潤いに結びつけることもでき、また色々な角度から利点も出てくると思います。住宅や工場、公園などの施設もつくることができ、人口も増え、税収も上がるのではないかと思います。 この地域に区画整理組合をつくり、地権者との調整を図っていただいて、区画整理事業を進めていただけないでしょうか。区画整理事業は5年か10年というような長い期間を要すると聞いています。農家の人たちも高齢化してきていますし、中には一刻も早く処分したいという人もいます。一刻も早く調整区域となるような施策を講じていただきたいです。	■農業の後継者不足については、本市においても課題となっています。厚木市では、地産地消の取組を進めているところであり、また、将来の食の安定供給に向けて、どう新たな農業をつくっていくかについても、農業従事者の皆様や関係団体と協議を進めています。 区画整理事業により、今まで市街化調整区域だったところを市街化区域へ編入できないかという御意見をいただきました。線引きの見直しは、県が主導し概ね7年から8年くらいの間隔で行われており、第8回まで線引きが行われています。区画整理事業により市街化調整区域を市街化の方に編入するに当たっては、今すぐできるわけではなく、長期的な視点で、都市づくりの方向性を示す都市計画のマスタープランへの位置づけなど、手続を踏みながら進めていく必要があります。お話をいただいた農業の重要性も踏まえて、御意見をしっかりと受けとめながら、農業のあり方等を研究し進めていきます。 (担当課: 都市計画課、農業政策課)
意見3 中津川流域の遊歩道の整備について	
【中三田第二自治会】 ■中三田では、最近では妻田から新しい道路ができて、座架依橋につながり、交通量がかなり多くなりました。ここは農道が多く、以前は朝晩、妻田の方から三田、下三田、中三田あたりで、お年寄りも含めて多くの方がウォーキングしていましたが、最近では幹線道路の交通量が多いため、スピードを出して農道を通る車両も増え、危なくてウォーキングのできる環境ではなくなっていました。そのため、今は朝早い時間帯などにウォーキングをしているようです。 お年寄りや若い人も含めて日常的に運動する場所がなくなっていると思います。この三田は、中津川の堤防が途中で切れてしまい非常にもったいないと思います。 今度市庁舎が新しくなりますが、中長期的には小鮎川、相模川、中津川から、自転車や歩きで一般道路を使わずに市役所に行けるような環境になるともっと住みよい街になると思います。遠い将来の話になりますが、宮ヶ瀬を経由して道志川から富士山へ歩ける道路があれば、観光都市としての要素が高まると思います。少なくとも、身近な中津川の堤防が、妻田からもう少し先まで歩ける環境になれば、健康にも良いと思います。	■堤防を使った御提案をありがとうございます。中津川で草が生い茂り、堤防が途中、途切れてしまっているというお話については、県が所管していますので、県に要望として伝えさせていただきます。より一層、皆様に魅力を感じていただき、市内外から全国、また外国からも来ていただける遊歩道を考えていかなければならないと思います。 また、皆様に手軽に遊歩道をウォーキングに使っていただけるよう整備することも大変重要であると思っています。今市内では6つのウォーキングルートを設定していますので、皆様にも御活用いただきたいと思います。中津川ルートにおいては、鮎津橋バス停を起点にして、才戸橋までの約6キロのルートとなっていますので身近に感じていただきながら活用していただければと思いますし、護岸の整備や遊歩道の整備についても大変重要であると思いますので、これからも県に要望しながら、少しでも前に進むように取り組んでいきます。 《実施日以降の対応状況等》 ■ご意見について、河川管理者である厚木土木事務所に伝達する予定です。 (担当課: 健康医療課 商業観光課 河川下水道総務課)